

この学校にわたしたち

2022. 06. 2 N012

ほめ達検定



左の写真の方をご存じでしょうか。大阪で「日本ほめる達人協会」を設立し、各地で講演を行い、有名になったという人です。その「日本ほめる達人協会」が行っている検定にほめ達検定というものがありますが、その中で「『気が弱い』『空気が読めない』といった一般的な短所を長所に言い換えてください」という問題が出題されたそうです。4月現在、ほめ達検定3級の合格者は6万人を超えているそうです。

飲食店などの接客態度を調査してきた西村氏は、欠点のあら探しに偏っていたことを改め、ほめる所を探すことに力点を変えたそうです。社内でほめ合う会社ほど、

従業員の働く意欲が高まり、業績の向上につながるのを見てきたからだといいます。

最近では、子育て関連の団体からも講演の要請があるそうです。心にもない「ほめ言葉」、つまり「お世辞」は、相手に簡単に見抜かれます。「ほめる教育」とは、随分前から言われてきたことですが、「ほめる」ことは、相手の良い点を発見し、正しく評価することから始まります。そして、そのことが「自分を見てくれている」という安心感や相手に対する信頼となるのだと思います。「ほめる」ことは、相手の秘められた力を引き出す原動力となるのです。西村氏は、さらにほめる言葉「3S」を提案しています。3Sとは「すごい」「さすが」「素晴らしい」の頭文字をとったもので私も授業でよく使います。子どもたちが発表したり、ノートに書いたりした時にこうやって言われることは何より嬉しいことでしょう。

大人として、親として、そして教師として私たちは、人の長所をみつめる“眼”を開き、自然にほめ言葉が口をつくようでありたいと思っています。「ほめる人」は「育てる人」です。毎日、このことを頭に置きながら、子どもたちと関わっていきたいと思います。

登校時の安全に向けて…

先日、「ハツ山地区青少年を守る会」の方2名が、校長室を訪ねていただき、少し懇談をさせていただきました。その際、私の方からは県道662号線及び県道664号線を通る自動車の速度超過により登校中の児童が危険な状況にあること、津南警察署に依頼をしたことを話しました。早速、守る会の方は、(速度超過の車が全て 当該企業の従業員とは限りません) 山田野区にある企業を訪ね、代表取締役の方に従業員への社内教育を徹底してほしいと伝え、会社側からも「危険車両が特定された場合、連絡してほしい」との回答があったと連絡をいただきました。この件についての情報は学校までお願いします。

地域の方々がスピーディーに動いていただき、感謝申し上げます。